



「北白川だより」 学校評価 臨時号

令和6年度 学校教育目標 『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、冬休み後の学校評価にご協力いただき、ありがとうございます。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群とB群で「できている」、C群とD群で「できていない」と大きく2つに分けて分析しています。

[学習面]

		A	B	C	D
児童	① まいにちのがくしゅうのめあてがたっせいできている。	48.6%	42.2%	7.8%	1.4%
	② せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。	60.7%	32.1%	6.9%	0.3%
	③ じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをいつたりかいたりしている。	44.5%	35.3%	17.1%	3.2%
	④ よんだり、かいたり、けいさんしたりするちからがみについている。	60.7%	29.8%	7.2%	2.3%
	⑤ いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。	60.7%	24.6%	11.3%	3.5%
	⑥ すすんでどくしょをしている。	54.3%	27.5%	11.8%	6.4%
	⑦ すすんでうんどうをしている。	61.8%	23.4%	9.5%	5.2%
保護者	① 我が子は、学校で学んだことを身に付けている。	55.1%	41.2%	3.0%	0.7%
	② 我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができている。	39.0%	52.8%	7.1%	1.1%
	③ 我が子は、進んで自分の考えを話すことができている。	40.8%	48.3%	9.7%	1.1%
	④ 我が子は、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付いている。	50.9%	40.8%	6.4%	1.9%
	⑤ 我が子は、自分から家庭学習に取り組むことができている。	36.0%	41.2%	20.2%	2.6%
	⑥ 我が家では、本に親しむことができる環境を整えている。	43.8%	36.0%	16.9%	3.4%
	⑦ 我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	47.9%	28.5%	20.6%	3.0%
教職員	① 確かな学力が身に付くように授業を工夫して行っている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	② 友だちや先生の話しっかりと聞いて考える習慣がつくように取り組んでいる。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	③ 授業中、子ども達が進んで自分の考えを伝えるような授業づくりを心掛けている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	④ 基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%
	⑤ 家庭学習の習慣が定着するような働きかけを行っている。	50.0%	38.9%	11.1%	0.0%
	⑥ 読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	44.4%	38.9%	16.7%	0.0%
	⑦ 進んで運動できるように工夫したり、声をかけたりしている。	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%

※本号では12月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。表のAは「よくできている」 Bは「だいたいできている」 Cは「あまりできていない」 Dは「できていない」を示しています。

【①「せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。」の項目より】

「できている（A群+B群）」と答えた児童・保護者・教職員ともに9割を超えていて、意識して取り組んでいる成果だと考えます。確かに、1対1では、上手に話す子どもは多いように感じます。

授業でも、担任が話をしていることをよく聞いている子どもは多いですが、誰かの発表を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりすることに関しては、まだまだ課題も見られます。例えば、自分の考えをもつと、それで満足してしまい、他の人の話に興味をもたないことがあったり、自分が考えなくても誰かが考えてくれるだろうと他人任せになったりすることもあります。

学校ならではの協働的な学びをより効果的にできるよう、日々、授業改善に取り組んでいきたいと考えています。ご家庭でも、学校で先生や友だちのどのような話を覚えているのか、是非、聞いてみてください。

【⑥「すすんでどくしょをしている。」の項目より】

「できている（A群+B群）」と答えた児童は、前期とほとんど変わらず、8割以上の児童が進んで読書をしていると回答したものの、A群だけを見ると、6.6%低下していました。読書はどうしたら増えるのでしょうか。いや、そもそも増やす必要はあるのでしょうか。

確かに、書籍ではなくデジタルメディアを上手に活用する方が、効率が良い点が沢山あります。デジタル技術の進歩により、いつでもどこでも視覚的な情報を直接得ることができ、悩んだり考えたりすることなく「答え」を知ることができます。

一方で、デジタルメディアには情報量が多く、またAIの進化で好みの情報が切れることなく次々に表示され、終わるタイミングが見つけられずに長時間化しやすい面もあります。視覚的な負荷や脳の疲労により、判断力や集中力が低下するとも言われています。もしかしたら、私たちは、疲れた脳で莫大な情報から必要な情報のみを切り取ることに労力を割いて生活をしているのかもしれない。切り貼りの情報には文脈や背景がなく、自分に都合の良い情報だけに目を向けたり、発信者に都合の良い情報だけを無意識に得たりしていることも考えられます。

書籍等、アナログメディアはどうでしょうか。デジタルでできるような切り取りや早送り等ができず、間・行間をも自分で想像しながら読まないといけません。しかし、想像し、文脈を知るからこそ、文字・単語以上の面白さを感じることができます。これはAIにはできない、人間のすばらしい力です。質の高い読書に必要な行間を読む力や想像力は、対人関係やコミュニケーションを育成するためにも大切な力でもあると考えます。

また、デジタルで情報を探すと、自分が興味ないことには、出会う機会が少なくなります。アナログには、例えば、国語辞典では探している単語以外の言葉が目に入ってきて語彙がなんとなく増えたり、ぶらぶら歩いていると、知らなかった店や物に出合ったりと、必要な無駄（ここでの「無駄」とは、自分が欲しい情報ではなく、無関心だったり興味がなかったりした情報のことを指します）が自分の世界を広げてくれることもあります。ですから、たまには、面白い本との思わぬ出会いを求め、図書館や書店に行ってみてはいかがでしょうか。

学校では、朝に短時間ですが読書の時間をつくっています。お家でも、読書するきっかけやお声かけをよろしく願いいたします。

そして、デジタル・アナログのそれぞれの良さを生かしながら、今後も学習を進めていきたいと思えます。

[生活面]

		A	B	C	D
児童	① じぶんからすすんであいさつをしている。	59.2%	31.5%	7.2%	2.0%
	② いえやがっこうのルールをまもっている。	49.7%	46.0%	3.5%	0.9%
	③ そうじやかたづけをじぶんでしている。	46.8%	42.5%	8.7%	2.0%
	④ せんせいやかぞくとふだんからはなしている。	67.6%	25.4%	5.5%	1.4%
	⑤ あいてをきずつけないことばづかいではなしている。	46.2%	41.9%	8.7%	3.2%
	⑥ にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	44.2%	36.7%	14.7%	4.3%
	⑦ じぶんにはがんばっていることがある。	80.6%	15.0%	2.3%	2.0%
保護者	① 進んで挨拶するように声かけをしている。	54.3%	40.4%	4.1%	1.1%
	② 家や学校のルールを守るように働きかけている。	54.3%	43.4%	1.5%	0.7%
	③ 掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	22.5%	50.9%	22.1%	4.5%
	④ 子どもの話をしっかり聴くようにしている。	41.9%	52.1%	6.0%	0.0%
	⑤ 言葉づかいに気をつけて話すようにしている。	37.8%	52.4%	9.7%	0.0%
	⑥ 苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	42.7%	50.2%	6.7%	0.4%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、伝えるようにしている。	64.8%	34.1%	1.1%	0.0%
教職員	① 自分から進んで挨拶ができるように働きかけている。	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%
	② 家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	③ 自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	66.7%	27.8%	5.6%	0.0%
	④ 子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%
	⑤ 言葉づかいについて指導するとともに、自らも意識している。	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%
	⑥ 子ども達が苦手なことにも前向きに取り組めるように、意識して実践している。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、積極的に伝えるようにしている。	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
	⑧ 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%

【⑤「あいてをきずつけないことばづかいではなしている。」の項目より】

「できている」と回答した児童は 88.1%で、子どもたちは自分たちなりに言葉づかいを意識していることが伺えます。昨年度後期は、「だれにたいしてもていねいなことばづかいではなしている。」という設問で、78.9%でした。家族や友だちとは、丁寧な言葉づかいでなくても良いことがあるため、今年度、設問を見直しました。

相手を傷つけているかどうかは、相手を感じることなので、あくまで自己申告での回答ですが、設問④【せんせいやかぞくとふだんからはなしている】の「できている」が 93%という結果からも、大人からの影響は大きいと考えるので、子どもたちの周りにいる大人が、他者を大切にしているからこそその結果であると考えます。さまざまな表現が社会には溢れていて、家で使わない言葉を覚えて帰ってくることもあると思います。相手を傷つける場合は、学校でも指導していますが、ご家庭でもその都度、お話していただいているのではないかと感じています。

同じ言葉でも、人によっては傷ついたり、そうでなかったりすることがあり、自分が傷つけようと思っていなくても、相手を傷つけてしまうこともあります。正しいことだったとしても、言い方やタイミング等で嫌な思いにさせてしまうこともあります。相手を感じることについて、常に相手を傷つけないように話すことは、とても難しいことかもしれませんが、人との良好な関係は、人とコミュニケーションを行うことで学習していくことができます。相手を傷ついたり、相手から傷つけられたりすることもあります。たくさん失敗しながらもいろいろな人とコミュニケーションをとって経験を積んでほしいと考えます。ご家庭でも、失敗からも学ぶことができるように、引き続きお声かけをよろしくお願いいたします。

○今回のアンケート自由記述欄には、保護者の皆さんに「上記の項目を振り返って、これまでのご感想をいただけると有り難いです。」について書いていただきました。以下に、一部を抜粋・集約して紹介いたします。

【学習面】

- ・苦手な事も嫌がらずやってみよう精神で取り組んでいる。
- ・漢字が苦手です。どうしたものかと思っている。苦手な子に対しての適切な取り組みを教えてください。
- ・家庭でも学習を好きになれるように意識して声をかけているが、学校でも学習が好きになるような雰囲気づくりを行ってほしい。
- ・運動があまりできていなかったので取り組めるように声をかけたい。
- ・なかなか運動は苦手でやらない。放課後、友達と公園で遊ぶ機会は増えてきたので、少しでも外に出てほしい。

【生活面】

- ・部屋の片付けは自分でできるようになった。もう少し本に親しんでほしいが、なかなか難しい。
- ・自分から進んで取り組む子にどうしたらなってくれるのだろうと親として自問自答の日々。
- ・低学年の時は、宿題を与えられた課題は、嫌々ながらもどうにかやってきたが、4年生になってからは好きな事は集中して頑張る、苦手な事は後回し、またはやらない等、自分の意思を表す。
- ・片付けなど、声はかけるができていない、ということも多い。
- ・やらなければいけないことを自分自身で考えられるようになってきたなど成長を感じている。
- ・挨拶と片付けが課題。
- ・注意されるのに慣れすぎて、後回しにするようになってきた。また、口うるさく言いすぎて、本音を隠す場面も。
- ・家でも、学校であったことを話してくれる。学校で起こった出来事の中で疑問に思ったことなどは「ママはどう思う？僕は違うと思う」と自分の意見も言えるようになった。

【言葉づかい】

- ・子どもの言葉づかいや態度など悪くなってきたが、反抗期も相まって対応が難しくなってきたなど思う。
- ・「おまえ」とか使い合っているのが、気になる。本人は気にならないと言うが、母は気になるし、聞くのも不快なので、そんな人がいるということは意識させている。

【保護者として】

- ・昨年度までとは違い、我が子にとって人との関わり合い方を学ぶ機会が多くなってきた。人間関係も失敗しながら心が成長していくものと思うので、親としても子どもから些細な発信があったら流さないように気をつけ、良い方向へ繋がるよう親子で話し合っていきたいと思う。
- ・毎日の辛抱強い声かけが大切。
- ・塩梅よく伝えていくように心がけたい。

苦手なこと、やりたくないことをさせることは、大人・子ども関係なく難しいものです。そして、初めから上手くいくこともなかなかないので、ご感想にもあるように、私たち大人が長い目で辛抱強く見守ることが必要です。失敗したことを責めたり、結果に対して評価をしたりすると、やる気が低下したり、ごまかしたり隠したりすることに繋がるかもしれません。大人の世界でも、失敗したら関係のない人までが責めることで、失敗を恐れたり社会復帰できなかつたりする話を聞きます。減点方式になりがちなのは、加減方式で子どもたちを見守ることができたらと考えます。今後も、ご家庭と連携しながら子どもたちを応援したいと思っております。お忙しい中、ご回答・ご感想ありがとうございました。

※保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。